

2020年度 日本工学院八王子専門学校											
柔道整復科											
テーピング固定法実技											
対象	3年次	開講期	後期	区分	必	種別	実習	時間数	30	単位	1
担当教員	青木 伊之			実務 経験	有	職種	柔道整復師 アスレティック・トレーナー				
授業概要											
<p>軟部組織損傷の時に、各部位、各損傷ごとに実施するテーピング固定法について、身体を代表的なテーピング法が存在する部位に分け、テーピング固定の目的、種類、範囲、肢位、テープの走行、固定期間、材料、必要な配慮について理解し、認定実技審査や卒後にアスレティック・トレーナーとして現場に出る、或いは卒後の臨床現場において活用するべく、知識を蓄え正確な方法とその注意事項を学ぶことが狙いである。</p>											
到達目標											
<p>認定実技審査に出題された際に問題なく合格でき、卒業後にスポーツの現場でアスレティック・トレーナーとして、また柔道整復師として臨床の現場において十分に活用できるよう、各部位別、各損傷ごとのテーピング固定法について、その目的、種類、範囲、施行時の肢位、各部位ごとのテープの走行、固定期間、材料、テーピング時とテーピング後に必要な配慮などについて洩れなく口述できるようになることを到達目標にしている。</p>											
授業方法											
<p>プリントを用いる。1年次に学んだ運動器、特に軟部組織の基本的な構造と機能、2年次に学んだ各部位の軟部組織損傷の知識を基に、身体各部位の損傷についてテーピング固定法のテクニックにおける意義、意味を理解し、正確に口述できるようになるよう授業を進める。</p>											
成績評価方法											
<p>全体の70%は試験と課題を総合的に評価する。残り30%は授業時間内に行われる発表方法、内容について評価する。</p>											
履修上の注意											
<p>柔道整復師の業務内容そのものを学ぶので、身だしなみに注意を払い（KC着用、爪は綺麗に、装飾品は外すなど）、医療人としてのキャリア形成の観点から、授業中の私語や受講態度などには厳しく対応する。理由のない遅刻や欠席は認めない。授業に出席するだけでなく、社会への移行を前提とした受講マナーで授業に参加することを求める。また、授業時数の4分の3以上出席しない者は定期試験を受験することができない。</p>											
教科書教材											
教科書（包帯固定学 公益社団法人 全国柔道整復学校協会 監修）に準拠する。											
回数	授業計画										
第1回	テーピングの基礎知識										
第2回	距腿関節損傷のテーピング1（アンダーラップ、アンカー、ステアアップ）										
第3回	距腿関節損傷のテーピング2（ホースシュー、ヒールロック、フィギュアエイト）										

テーピング固定法実技

第4回	膝MCL損傷のテーピング1
第5回	膝ACL、PCL損傷のテーピング
第6回	ハムストリング肉離れのテーピング
第7回	肩関節損傷のテーピング
第8回	腰部捻挫、肋骨骨折のテーピング
第9回	肘関節、手関節、手指のテーピング
第10回	距腿関節の応用テーピング（足関節底背屈制限、足関節損傷応急処置など）
第11回	足部のテーピング
第12回	距腿関節損傷のテーピング3（バスケットウィーブ）
第13回	膝MCL損傷のテーピング2（Xサポート）
第14回	バンテージを用いたラッピング
第15回	テーピング固定法のまとめ